広報たかつき

知る　広がる　好きになる

たかつきDAYS

地名に呼ばれて。

平成31年
1
No.1370

地名の由来を訪ねて

どの土地にも地名がある。高槻にもたくさんの地名がある。「どうしてここにこんな地名が？」「この地名には、どんな意味が？」そんなことを考えたことはないだろうか。

地形や自然、歴史や文化、住民の思い……。地名には、その土地ならではの独自のストーリーが秘められているのだ。私たちの住むこのまち「たかつき」は、かつて「高月」の文字でも記され、それが「高槻」に転じたといわれている。新年を迎える今、改めて地名にまつわるエピソードで、まちの新たな一面に出合いたい。

大手町

OOTECHO

西隣の野見町との間に、高槻城の北大手門があったまち。周辺のエリアは、城下町の中心として栄え、江戸時代には「新川之町」「横町」「魚屋町」などに分かれていた。城下町の歴史を持つまちは、今の大阪府内では大阪と岸和田、そして高槻の3つだけ。界隈には古くからの寺院や町家が存在し、城下町の風情を色濃く残している。

上本町との間の南北通りは、かつての「魚屋町」。町家の虫籠（むしこ）窓や門から張り出すクロマツなど趣がある

京口町との間の東西通りは、かつての「新川之町」。京口町には京都や大坂までの道を案内する道しるべが

高槻城主ゆかりの3つの寺院が北隣の京口町にかけて建ち並ぶ。「寺町」と呼ばれ、現在でも落ち着いたたたずまいの一画

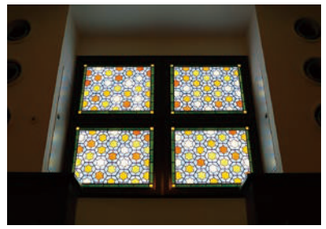
大学町

DAIGAKUMACHI

大阪医科大学があることから名付けられた。約90年前、日本初の5年制「大阪高等医学専門学校」が太平洋戦争後旧制大学となり、高槻初の大学メインキャンパスとなった。ヴォーリズにより設計された学舎群のうち、当時講堂だった別館だけが、歴史資料館として残る（見学可、要予約）。

●問合先：☎072・684・6738
（大阪医科大学 歴史資料館）

別館は、高槻市初の国の登録有形文化財。インドサラセン様式のアーチやアラベスク装飾など、当時最先端のモダンな技法が特徴だ。最大の見所は階段講堂で、随所に使われたカーブのデザインがアクセント



郊外の発展伝えるニュータウン

大和

DAIWA

戦後の経済成長とともにできたニュータウンのうち、阿武山の山腹につくられたこのまちは、開発した会社の名前にちなみ、命名された。上空から眺めれば、山と住宅の境目や、1棟ごとの区画がキレイに整っていることがよくわかる。住まいのすぐ隣に緑が広がる住みよい環境は、高槻の他のまちにも共通する魅力。

山の傾斜を生かした住宅街。勾配の先には高槻市内のパノラマが広がっている

語ってくれる。まちは生活の基盤であり、住む人の人生に大きく関わるもの。地名は、その思いをこれからも受け継いでくれるのだろう。

町の今昔

黄金の里

KOGANENOSATO

戦国時代の武将・三好長慶（ながよし）が黄金を埋めたという伝説に由来。長慶が城主となり、天下の政治が行われた芥川山城が近くに構えられた地。現在はのどかな住宅地と山林の風景が広がっている。

紫町

MURASAKICHO

「紫煙」の紫からつけられたといわれる。過去には日本専売公社の工場があり、現在は「JT医薬総合研究所」と「JT生命誌研究館」がある。

側室をまつった子安天満宮は、当時の村人により建立されたものとされる

伝承のこる、地名のロマン

古くから伝わる伝説にちなんで名付けた地名がある。遥か昔の高槻で起こったさまざまな出来事。歴史の教科書で目にしたことがある単語や人物が登場する言い伝えがもとになっている町名は、意外と多い。

古いものばかりではない。人口が増加した昭和40年代の高度成長期、高槻には新たなまちと地名が誕生し定着していった。

古い地名も、新しい地名も、その土地に住んだ人の思いを

梶原

KAJIHARA

「かじおり」とも呼ばれた梶原には、中国・唐の船が淀川を上りこの周辺に差しかかったところ、大風でかじが折れたという言い伝えが残されている。西国街道を中心としたこの地域。とくに一、二丁目あたりは、細い道路脇に古来の寺社が点々とするちょっとした散策コース。

昔の面影残すまちなみで、遠くからでもひときわ目を引くのが一乗寺のクスノキ。寺の伝承では樹齢約800年ともされる大木で、圧倒される

赤大路町

AKAOOJICHO

菅原道真が大宰府へ左遷されたとき、身重の側室が別れを惜しんであとを追ったが、ちょうどこの地で産気づいた。そのまま乗物の中で出産、辺りがその血で染まったことから赤大路の名前が生まれたという。側室と子どもは村人の介抱むなしく亡くなってしまったが、側室は村人に感謝し、安産の神となることを誓ったとされる。

地名の響きを味わう

市役所がある桃園町をはじめ、桜ケ丘や柳川のように、花や草木の名前がつく地名も多い。響きや漢字がキレイなだけではなく、実際に訪れてみれば、美しい自然の景観があるまちも。梅を皮切りに、もうじきはじまる花咲く季節、地名をもとに訪ね歩いてみてもいいだろう。

白梅町

HAKUBAICHO

白梅町には、その名のとおり梅の名所、上宮天満宮が。見ごろには、参道や境内の白梅と紅梅を楽しみに多くの人が訪れる。近くの乾性寺には紅梅の古木、城跡公園まで足を伸ばせば白梅なども。

萩谷

HAGITANI

市北部の山あいに広がる萩谷には、家族連れにも人気の萩谷総合公園がある。大型遊具やサッカー場、テニスコートがあるほか、森林浴や野鳥観察ができるゾーンも。開放的な公園は、癒し効果もたっぷり。

桜町

SAKURAMACHI

芥川沿いにあり、南北が阪急とJRに接する桜町。1kmほど川沿いを北へ歩いたところには、桜の名所・芥川桜堤公園がある。散歩や川遊びができる自然豊かな川原には、穏やかな時間が流れる。

＼意外と知らない？／

難読地名コレクション

高槻市民でも読めない人がいるかも？
知らない人はおそらく読めない、ナゾの地名を読み方とともにご紹介。

上牧

[かんまき]

上牧がつくまちは上牧町、上牧山手町、上牧北駅前町、上牧南駅前町、東上牧がある。上牧町二丁目には、大阪出身の詩人・三好達治の墓と記念碑が建つ本澄寺があり、三好達治記念館が併設される（要予約）。

● 問合先：☎072・669・1897（本澄寺・三好達治記念館）

古曽部町

[こそべちょう]

平安時代の史跡が残るまち。三十六歌仙のひとり、伊勢姫が晩年を過ごした住まいのあとに建てられたという伊勢寺も有名。同じく歌人の能因法師ゆかりの史跡も点在。

出灰

[いずりは]

市北部樫田地区の出灰。その名は高槻で一、二を争う難読地名だ。ポンポン山への登山口としても知られ、巨木のある素盞嗚（すさのお）神社も有名。

東五百住町
西五百住町

[ひがしよすみちょう・にしよすみちょう]

地名の由来は諸説あるが、東西五百人の人がこのまちにいたことが一説となっている。五百住の地名は南北朝時代に確認され、戦国時代には東と西に分かれたとみられる。

西面

[さいめ]

南北朝時代より、長くその名で呼ばれ続けてきたのだそう。この地区の「玉川の里」では毎年5月～6月、市の花であるうのはなが白い花びらをつけ、歩く人の心を癒してくれる。

土室

[はむろ]

古代、日本最大のハニワ工場があった土室。遠方からハニワづくりの研修に来るほどの中心地だったのだとか。新池ハニワ工場公園は、当時の工房と窯跡を整備したもの。

神内

[こうない]

昭和9年に神内二丁目に阪急上牧駅（当時は上牧桜井ノ駅）が完成。駅の北側には、住宅地が広がる。

芝生町

[しぼちょう]

芥川の下流右岸に広がるまち。高槻市営バスの営業所（車庫）があり、市内で大活躍の緑色のバスや、ラッピングバスなども集う。市民プールや総合体育館など、市民にはおなじみの施設も。

※歴史についてのお問い合わせは、☎072・674・7652（高槻市役所文化財課）まで